

余市町でおこったこんな話

余市町の埋もれた歴史等を紹介し、改めて余市町を再認識するコーナーです。

～その255～『観光農園 その2』

三愛観光農場の観光農園は好調だったようです。同農場は冬でも観光客が来もらえるように、ドーム型の大きな温室を建てました。

鉄骨造りの温室の高さは5mほどで広さ200m²、内部はボイラー暖房と太陽光で温められる仕組みになっており、花などの鉢物が並べられていました。

オープンして3年目の昭和42(1967)年5月21日、この年の観光農場開きがに盛大に行われ、当時の海野町長、吉田観光協会会長さんはじめ20人ほどが集まって「ブロイラーパーティー」を楽しんだそうです。

昭和40年代はじめ、余市町や近隣の町村への観光客の入込数は年々増加しており、今後も観光客が千人単位で増えると同園は予想しています。

三愛観光農場の好調に刺激されたのか、この年の秋、観光客向けに果物狩りの「あっせん会社」を立ち上げようという動きが現れました。

同年9月22日の新聞記事には「余市、仁木地方には広い果樹園がありながら、現在、観光客を受け入れる体制が整っていない。そこで果樹農家とタイアップし、観光客にリンゴ、ブドウ狩りのあっせんをしよう」という会社の設立準備が、一部有志の間で進められている」とあります。この構想は9軒の果樹農家、4軒の観光業者が株主になる予定で、ブドウ狩り(1人200円)、リンゴ狩り(同100円)の入園料を想定していました。

このお話は実現し、株式会社『観光農園』が設立されました。

同社の関係者が感じていたのは「余市、仁木が積丹、岩内方面の観光の入り口となっていながら、いつも観光客が素通りする」ことで、設立前から試験的に果物狩りを企画し、オープン直後のモイレ城閣での食事や入浴もセットにしました。

あっせん先の仁木町のブドウ園を訪れた第一陣の来園者はおよそ150人、続いて200人ほどの団体客

が果物狩りを楽しんだので、好調な出だしだったといえます。

翌43年には大浜中地区に新たな観光農園、フルーツガーデンが誕生しました。国道5号線の東大浜中のバス停から内陸に700mほど入ったところに鉄筋造りの2階建ての建物ができました。

1階は日本間2部屋と4畳半1部屋、2階はほぼ全面ガラス張りの喫茶ルームで、園内には幅4mの遊歩道が巡っていました。ジンギスカンなどの焼き肉が好評で、平日に30から50人、週末には100人ほどの人が来園したそうです。

この年ふたつ目の観光農園、永谷園クロップガーデンが豊丘町にオープンしました。豊丘小学校のすぐそばで、大型駐車場やトイレが完備され、こちらもジンギスカンを食べることができます。

昭和43年の観光農園の好調さが記事に見えます。

「余市名産のブドウはことし豊作。黒色の『キャンベルズ』と青色の『ナイヤガラ』がいま収穫期。ブドウ狩りの団体は今月にはいってからぼつぼつ来始めたが、いまがちょうどピーク。この日訪れた団体の“王様”は道府の職員、家族約二千三百人の一行。今シーズン最大の規模で、大型バス四十台を連ねて山田町のブドウ園入りし、一帯を人、人、人で埋め尽くした」



▲写真 フルーツガーデン
(観光パンフレットより)

余市町の空間	9月1日～9月30日の本町の空間放射線量率は「平常レベル」でした。
放 射 線 量 率	(最高値: 43nGy/h、最低値: 36nGy/h、平均値: 38nGy/h) ※平常時は10～60nGy/h程度

広告

一般住宅、ビル、倉庫、物置の解体工事・住宅リフォーム・
造園工事・敷地内舗装・ロードヒーティング・融雪機・
除雪・雪下ろし・車庫・物置・納屋設置・採取土販売

お見積もり無料 総勢40人のスタッフがお待ちしております。お気軽にどうぞ!!

（株）古垣建設



当社キャラクター
たいようくん

余市町入舟町126番地

TEL0135-22-5578 FAX0135-22-5050

<http://furugaki.co.jp> E-mail: k@furugaki.co.jp

フリー アクセス **0800-800-7778**



弊社で開発した、世界初特許技術により解体で発生するコンクリート塊をその場で砂利とし、利用することによりどこよりも安く、親切、丁寧に対応させて頂きます。
見積もり無料です。お気軽にお問い合わせください。

